

人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業  
「拠点機関におけるデータ共有基盤の構築・強化委託業務」  
評価結果表

業務実施研究機関	国立大学法人東京大学
業務実施研究所等	史料編纂所
業務主任者	保谷 徹・前近代日本史情報国際センター長
総合評価：S	
総合評価に関するコメント	
<p>国内有数の日本史資料を扱うデータアーカイブとして、着実に資料のデジタル化・アーカイブ化を進めている。史料編纂所の採訪進捗管理システムをデジタル保存の国際標準の一つである OAIS 参照モデルに基づいて記述を整備した点は評価できる。また、本事業を通じて、日本史研究のみならず、多分野との学際的連携の可能性が期待される。</p> <p>一方で、データへのアクセスやウェブ上のユーザー・インターフェイスについては、決して利用者にとってわかりやすいとは言い難く、利用者へのデータの提示並びに提供方法については、改善の余地が大きい。また、海外発信について、各種の英語化を含め、より積極的な取組を期待する。</p> <p>なお、本プログラムに参加している一部の研究者が他にも多数のプロジェクトで研究代表者・分担者を兼務している点は、業務遂行上問題がないか、慎重に再検討することが求められる。</p>	

※ 【総合評価】に対する標語は下記のとおり。

- S: 委託業務のこれまでの実施状況がたいへん優れており、今後の計画等についても本事業推進への貢献度が非常に高いと見込まれる。
- A: 委託業務のこれまでの実施状況が優れており、今後の計画等についても本事業推進への貢献度が高いと見込まれる。
- B: 委託業務のこれまでの実施状況は概ね問題なく、今後の計画等についても本事業推進への貢献が見込まれる。
- C: 委託業務のこれまでの実施状況はやや問題があり、今後の計画等については本事業推進に貢献するうえで改善が必要と判断される。
- D: 委託業務のこれまでの実施状況は問題が多く、中止が妥当と判断される。